

第1回から第3回の10年経験者研修では、指導・助言を受ける側の思いや意欲を引き出すコーチングの手法に着目し、コラボ研修での実践を通して学びを進めてきました。本来コーチングは、コーチとクライアントが1対1で継続的に時間をかけて行われるものです。校内での指導・助言とは、人数や時間などの前提条件が異なる部分も多くあり、学んだこと全てがそのまま活用できるとは限りません。しかし、「傾聴」「質問」「承認」の3つのスキルについては、校内での指導・助言はもちろん、子どもとの関わりの中でも活用できる部分が多いので、是非、ご自身の実践の中に取り入れてみてください。

～～初任者のOPPシートより抜粋（コラボ研修）～～

『私は今回の研修に対して、とてもプレッシャーに思っていました。なかなか授業を考える時間も取れない中で、気になっていることや悩んでいることが沢山あり、「困っている!」ということ素直に伝えることで、10年めの先生方も理解をしてくださり、アドバイスをもらえました。自分もそのようになりたいと感じました。』

→まずは相手の話を聴くことで、抱えている思いや悩み事を共有でき、それに沿ったアドバイスができたようです。また、10年めの先生方に「理解してもらえた!」という承認も生まれたようです。

◇最終回の実践報告に向けて

令和7年1月28日(火)・30日(木)実施の第5回の10年経験者研修では、小グループでの実践報告を予定しています。

詳細は、第4回研修実施時の【事務連絡】10年経験者研修第5回(1月)について(資料配付あり)で行います。

この研修通信では、実践報告の内容について補足説明をします。

①所属校における『自己の役割』に基づいた実践の報告

「所属校において、自分自身がどのような役割を担う(実践を行う)と決めて、具体的にどのような実践をしたのか?そして、実際に実践してみたかどうか?」を報告してください。ご自身の実践に関して「なぜその役割(実践)をすることにしたのか?」という理由の部分については、研修実施計画書を作成するにあたって所属校の校長と対話した内容(学校教育目標や所属校の現状)や、ご自身のもちあじについての内容を、実践報告に盛り込むことで、所属校の違う受講者にある程度その背景を理解してもらえらると思います。(※どちらも他校の方に開示できる範囲。個人情報等にご注意ください。)

「うちの学校では～しています。」という所属校の実践報告ではなく、「うちの学校では～しています。その中で、私は～という役割(実践)にチャレンジしています。」といったような、所属校におけるご自身の実践報告になるよう留意してください。

②『研修目標』の評価

「今年度の研修で学んだことのうち、『自己の役割』を果たす中で、実際に活用できたことや活用できそうなこと。また、自己の役割をよりよく遂行するために今後学んでみたいこと。」を報告してください。ここでは、研修実施計画書にご自身で設定した『自己の役割』と『研修計画』が紐づいていたかを確認し、今後のキャリアにおけるご自身の学びの方向性について報告して下さい。

※ 研修実施計画書に基づいて実践を行っていることを前提としていますが、年度中に計画を変更した場合は、変更の内容や経緯についても報告してください。